

資料 1

「おすすめ提案」一覧

「古谷会長 総評」

今年度、連合会として初めての試みである、新入会員による建築士会での取り組みたい事業のアイデアを募集したところ、全国より35件に及ぶ大変意欲的で真摯な提案をいただき、大変ありがとうございました。発案したものとして多くの応募があったことを、とても嬉しく思います。

提案の内容はいずれも若々しさと熱気にあふれるもので、建築士会の未来を展望する上で大変心強いものでした。いずれもが取り組むに値するものであることは明らかであります、40歳以下の多くの会員による「いいね」投票、並びに連合会評価委員の「おすすめ」投票により、その中から9件の（うち1件は複数グループの提案をまとめたもの）「おすすめ提案」をここに示しています。

順不同ですが以下に各提案に対するコメントを述べさせていただきます。

- 『公立学校をともにつくる ～住民参加型学校づくりプロジェクト～』（長野県建築士会上伊那支部）は、実際に予定されている公立学校整備に際して、住民が一体となって地域資源を生かした学校づくりを行う上で、地域の建築士が進んでこれを支援しようという大変意欲的で、かつ現実に即したもので、大変大きな意義のあるものだと思います。
- 『建物研究 深掘りしてみないと』（愛知県建築士会学生部会）は、県内外の建築について調査を行い、記録の発表などを通して情報を共有し、交流にも役立てようとするもので、学生部会からの提案という点が心強く感じました。
- 『アプリを活用した情報提供、コミュニティ活性化事業』（京都府建築士会青年部会）は近年急速に普及しつつあるスマートフォンなどによる情報交換ツールを整備しようとするもので、全国に波及する可能性のある提案です。
- 『ゲーム理論やAI、社会的選択理論などを建築の文脈に応用した知的サロン』（大阪府建築士会）は、月例サロンやオンライン講座、思考ノート共有を通じ、若手建築士の論理的思考・戦略的対話力を育成し用途する大変先端的な試みと感じます。
- 『とっとり「新」県民の建物百選』（鳥取県建築士会）は、1996年に選定された「とっとり新県民の建物百選」を刷新し、新たな百選を選ぶことを通して、新旧会員の交流や、県外への発信などにも役立てようとする提案です。
- 『建築志のつどい建築士会の会員増強に向けた交流の場の提案』（岡山県建築士会）は、学生も参加しやすく、社会人・学生間の意見交換も促進することのできる「建築志のつどい」を定期的に開催する提案で、取り組みやすい提案だと思います。
- 『ブロック若手会員作品賞の創設』（山口県建築士会）は、他団体にない賞の新設という点でユニークであり、またかなりハードルの高い連合会建築作品賞に対して、若い世代の積極的な応募が期待できる提案です。
- 『スキマハッキングプロジェクトー未利用空間の有効活用によるにぎわい創出ー』（佐賀県建築士会鳥栖地区）は、まちの未活用空間（スキマ）を活用し、カフェや休憩スペース、雨宿りストリートなどを創出しようとするもので、地域への建築士の参加が大い期待される提案です。
- 『〈空き家の終活〉～まちと建物を“つなぎ直す”デザインを考える～』（北海道建築士会札幌支部）を始めとする複数の建築士会より提案のあった、「空き家」をめぐる各種のアイデアは、全国で直面する空き家問題の打開を図ろうとするもので、それぞれに可能性があるとともに、こうした複数の建築士会が交流し、共同で取り組むのにも適したテーマだと考えました。

この場ですべてを講評するゆとりがありませんが、他にも多くの意義ある提案があります。ぜひ、それらもご覧の上、それぞれの建築士会や、ブロック会、委員会などで取り組むことができそうな提案を見つけて、若手会員の提案を少しでも多く実現に繋げていただけると、大変幸いに思います。

番号	所属士会	チーム名	アイデア名	代表者氏名	概要
3	北海道建築士会 札幌支部	青年委員会	〈空き家の終活〉 ～まちと建物を“つなぎ直す”デザインを考える～	谷 拓実	空き家を地域資源として再生し、まちと建築の関わりを考える企画。若手建築士に新たな実践の機会を提供する企画。
5	長野県建築士会 上伊那支部		公立学校をともにつくる ～住民参加型学校づくりプロジェクト～	島崎敏一	地域の資源を活かし、子どもや住民が設計・施工に参加して「みんなでつくる学校」を実現する企画。
6	愛知建築士会	学生部会	建物研究 深掘りしてみないと	寺田響 (学生会員)	学生部会が県内外の建物を調査・共有し、発表や記録を通じて学びを深める企画。交流や継続活動で建築への関心を育む企画。
8	京都府建築士会 青年部会	セイネンブカイはタノシイ！	アプリを活用した情報提供、 コミュニティ活性化事業	大西 興季	スマホ・PCアプリ（Discord：デスコード）で建築士会専用コミュニティを提供。会員同士の交流や情報共有、イベント誘導を可能にし、初回設定はメルマガでサポート。必須情報ツールとしての発展を目指す企画。
12	大阪府建築士会	「知的サロンシリーズ」講演会（大阪府青年女性委員会）	ゲーム理論やAI、 社会的選択理論などを建築の文脈に応用した知的サロン	小林優作	建築の文脈でゲーム理論やAI、社会的選択理論を応用し、意思決定力を磨く知的サロンを開催。月例サロンやオンライン講座、思考ノート共有を通じ、若手建築士の論理的思考・戦略的対話力を育成し、設計を「解を探す思考」から「問いを立て関係者を巻き込む戦略」へと転換する効果を狙う企画。
14	鳥取県建築士会	鳥取県1	とっとり「新」県民の建物百選	瀬川 和也	鳥取県建築士会の「とっとり新県民の建物百選」は、1996年選定・1998年出版の百選を刷新し、現代的に活用・普及する事業。若手会員を中心に百選を再訪・検証し、新築建築も加えて現代版百選を作成。講義やAR・Web地図などを活用し、県内外への普及と会員の建築理解を深める。対象は士会員や学生、選定経験者、現代技術を活用できる会員とした企画。
20	岡山県建築士会	ねと和解せよ	建築志のつどい 建築士会の会員増強に向けた交流の場の提案	福原 楓	建築士会会員増強を目的に、建築志のつどいを提案。建築業界従事者や学生が顔見知りを増やす場として、名札を活用した交流会を小規模・定期的に開催。学生も参加しやすく、社会人・学生間の意見交換を通じて会員参加促進や建築業界・地域の発展に寄与した企画。
22	山口県建築士会	LocoDe z a (ロコデザ)	ブロック若手会員作品賞の創設	原田 達夫	若手建築士が挑戦しやすい入門的作品賞「建築士会ブロック若手会員作品賞」を創設。ブロック内の新築・リノベ建物を対象に、40歳以下の正会員が応募可能。優秀賞・大賞を表彰し賞金を授与。若手のモチベーション向上や実績・信頼の構築、建築士会活動の活性化を図り、応募をきっかけに未入会者の入会促進や作品の建築マップ化による全ブロック共有も目指とした企画。
31	佐賀県建築士会 鳥栖地区	チーム泰元	スキマハッキングプロジェクト -未利用空間の有効活用によるにぎわい創出-	成富泰元	まちの未活用空間（スキマ）を建築的手法で活用し、市民参加型で再利用する事業。廃材を活用し、カフェや休憩スペース、雨宿りストリート、スケートパーク、地域の寄合所などを創出。建築士の職能理解向上や地域活性化を目指し、小規模から全国展開を構想する企画。

番号	所属士会	チーム名		選考委員コメント
3	北海道建築士会 札幌支部	青年委員会	〈空き家の終活〉 ～まちと建物を“つなぎ直す”デザインを考える～	・空き家対策を掲げた活動は各地で見られるが、「なぜこれまで活用されなかったのか」「そもそも活用の余地はなかったのか」という視点を持つことで、単なる利活用にとどまらず、地域課題を掘り起こし可視化する手法にもつながると感じた。こうした視点は異なる地域に置き換えても応用可能であり、普遍的な意義を持つものである。
5	長野県建築士会 上伊那支部		公立学校をともにつくる ～住民参加型学校づくりプロジェクト～	・統廃合が進む公立学校の再編に対し、建築士が住民や子供たちと共に新しい公共建築のあり方を提案するというプロジェクトが楽しそう。 ・公立学校を地元住民と地元建築士がともにつくるという発想が面白いと思う。統廃合だけではなく、学校の増改築等に関わっても良いのではないかと思う。 ・地域の学校再編について村の有志団体を支援することで、建築士のコミュニティアーキテクトとしての役割を体感できる場となり、地域貢献にも繋がる事業であり、発展性がある。
6	愛知建築士会	学生部会	建物研究 深掘りしてみないと	・建物見学は誰でもとっかかり安く、わかりやすく、建物を知ること建物にも町にも愛着がわく。事業内容も、「会員同志で調べる」「報告、記録としたものは新入会員等への配布物として活用」「5年毎の発表会、OG・OB会の開催」とはっきりしている ・何より今すぐにも実行できるアイデア（事業）で、実現性が高い。学生が参加しやすい建物見学からスタートし、実務者との意見交換→報告→記録→配布物→小冊子と積み重ねることで発展性に繋がる。
8	京都府建築士会 青年部会	セイネンブカイはタノシイ！	アプリを活用した情報提供、 コミュニティ活性化事業	・建築士会情報コミュニティ提供のためのアプリは、SNSの活用として有効かも。 ・建築士会情報コミュニティを実現するアプリやSNSの必要性を感じている。このアイディアはDiscodを使う提案だが、会員メリット、会員相互のコミュニティを構築するにはとても必要なアイディアだと思う。 ・情報過多の社会においては、一方的な情報発信にとどまらず、あふれる情報の中から個々人が関心を持つものを選び取り、交流を生み出すツールが生まれることに大きな意義を感じる。また、誰かに負担を強いるのではなく、各自が自発的に関わり合うことで、長期的かつ持続的な交流につながる点も優れていると考える ・建築士会員限定のコンテンツ、ができてうまく使えれば、会員にとってとてもメリットになる。是非、実現してほしいと思い選定した。ただ、discord というアプリを使うことに関しては良くわからない。
12	大阪府建築士会	「知的サロンシリーズ」講演会（大阪府青年女性委員会）	ゲーム理論やAI、 社会的選択理論などを建築の文脈に応用した知的サロン	・戦略的建築士、科学する設計者という観点は、今の建築士会員に欠けている部分ではないか。最新の情報リテラシーを習得し、建築士の職能をどう拡げるかという観点で学ぶサロンの意義は大きいと思う。行き着く先が、「解を探す思考」ではなく「関係者を巻き込む戦略」である点が、建築士解の団体の意義を高めることになりそう。 ・一見ハードルが高いように感じられるが、設計者にとって不可欠な論理的思考力や対話力を磨く機会となる点に意義がある。また、成果をアーカイブとして共有することで他地域でも活用でき、各地域ごとの独自の視点や要素を取り入れられる柔軟性を持つ点も優れている ・建築に限らず学生時代の延長のような講義やディスカッションを通して、会員の交流や単なる「仕事仲間」以上の人間関係を築くことができる可能性を評価しました。 ・建築士の職能を広げるということでは、意識転換は必要である。この知的サロンは意識転換の場となる可能性を期待できる。 ・たくさんある具体的なテーマ例が、頼もしい。対話力の育成、とあることから、集まって対面でのサロンが事業の内容と思われるが、こういった講座シリーズは、アーカイブにすることができ、後から学べることも良いし、会員のメリットにつながる
14	鳥取県建築士会	鳥取県1	とっとり「新」県民の建物百選	・「新」百選は、次世代の価値観が表出するいいきっかけになるのではないか。選定方法も、世代別とか、属性別とか、新しい手法も試せると楽しそう。全国の会員がそれぞれの地域で選定する建物は、建築士解でしか表現できない価値観を生み出せると思う。 ・地域における「建築選（後世に伝えたい建築）」は一定期間ごとに取りまとめられるが、その価値は世代や社会情勢によって変化するため、地域を改めて見直すことの意義を強く感じた。また、時代に応じたツールを活用することで、より適切なアーカイブが可能となるだけでなく、参加者自身のスキル向上にもつながる点も評価できる。 ・地域の資源である県民の建物百選を時代に合ったものにつくり変えよう、という他の提案にはない観点、そして、鳥取県建築士会のこれまでの活動の流れ・歴史に通じている点を評価しました。
20	岡山県建築士会	ねと和解せよ	建築志のつどい 建築士会の会員増強に向けた交流の場の提案	・まずは、建築士会で顔見知り・知り合いを増やすためのきっかけづくりのための交流の場を作ることは大切だと思う。 ・建築士の交流の「場」をつくる、という提案が面白いと思った。建築士同士の交流・相談、学生や子どもとの交流、施主との交流など、様々な交流やコミュニケーション、PR等が考えられると思った。 ・一見するとよくあるイベントのようにも映るが、「顔見知りを増やす」ことに重点を置いている点が新鮮であり、これまでにない視点だと感じた。また、周知活動を継続する上での課題に踏み込んだ提案であり、幅広い世代の交流を生み出せることから、地域を問わず展開できる点も優れている。 ・コミュニケーションの取り方が時代と共に変遷・多様化している中で、まずは「顔見知りを増やす」という観点から増強に向けて交流の場を持つことは、時代の変化に即したものであると思う点を評価しました。
22	山口県建築士会	LocoDe z a (ロコデザ)	ブロック若手会員作品賞の創設	・単位士会だけでなく、ブロック内の絆を強め、ブロック間の交流を深めるにはとてもいいアイディアだと思う。作品賞というより、建築士が関わった仕事（設計だけでなく施工や行政、教育なども含める）という対象にすれば、より建築士会としての意義も高まる。青年委員会が実施している地域実践活動は、地域に対するボランティアが主体となっているが、それとは別で地域に貢献している建築士の業務を評価するものがあったもいい。 ・若手会員が目標にできるブロック単位での入門コンテスト・作品賞創設とすることで、身近に応募ができ、作品数も集まりそうだなと感じました。ブロック内での交流も機会が限られる中で、このような取り組みはブロックの活性化にも通じるであろう点を評価しました。 ・若手建築士の挑戦しやすい建築コンクールの創設を評価。エリアがブロック単位で、会員同士の交流を深めたりや情報交換、自己研鑽に繋がる場として期待できる。
31	佐賀県建築士会 鳥栖地区	チーム泰元	スキマハッキングプロジェクト -未利用空間の有効活用によるにぎわい創出-	・わが町の小さく見落としがちなスキマ（建築やスペース）に注目して、まちの活性化の創出のきっかけづくりに建築士の存在をアピールできそうです。 ・一過性のイベントではなく、自然に一般の人々の目に触れる形で取り組まれている点が、従来のワークショップ等とは一線を画しており、話題性もあって非常に良いと感じた。また、建築士の職能である企画立案やデザインに直接携われることが、参加者一人ひとりのスキル向上にもつながる点も評価できる。 ・まちの空間（スキマ）をデザインすることで建築士の存在感を高めようとする活動。建築士の社会的認知度向上が期待できる事業として評価する。 ・「まずは小さなスケールから始めて、いずれまち全体に波及することを目指す」のが、良い。事業の流れが、きっちりと考えられていて、」記載の通り、「一般の方を巻き込むこと」ができて「建築士の職能に対する理解を深め」てもらうことが期待できる。